

千島連盟別海町支部・青年部通信 No.41

2007(平成 19).11.15 発行

ご挨拶

日毎に寒くなってまいりました。早いもので今年も一ヶ月半を残すばかりです。

領土交渉に進展がない中、活動する会員が固定化する傾向にあり、もっと日頃の会員同士の交流を深めようと親睦パークゴルフ大会を企画したところ、35名の参加申込がありましたが雨で中止を余儀なくされました。来年は早めに準備をし、会員同士が顔を覚えより活動しやすい環境づくりに努めたいと考えております。

10月14日は昨年度暴風により中止となった「北方領土返還要求別海町民大会」を本別海で開催したところ、ご協力ありがとうございました。

また12月1日には、中央アピール行動（北方領土返還要求行進）に参加するため、支部からは私と白崎青年部長が上京する予定でおります。

この行進は、管内一市四町からなる北隣協の事業として昨年からはじまったもので別海ふるさと会員の応援もあります。大いに声をあげてきたいと思っております。

支部長 白田 誠治

北方領土返還要求別海町民大会開催10/14

別海町民が一堂に会し、北方領土返還は国の根幹にかかわる重要な問題であり、北方四島の早期返還に向け日本政府に毅然とした態度と戦略をもち交渉を進展させるよう強く訴えた。



別海町、別海漁協、別海町町内会連絡協議会様のご協力を得、“秋味まつり会場”にて開催。高橋副支部長の挨拶後、別海町長、根室支庁長



はじめ多数の方が力強く返還を訴えました。

北方領土返還要求別海町民大会



白崎青年部長が大会決議を表明。締め括りに大橋青年副部長が四島の名を呼びあげ、参集者全員でシュプレヒコールをあげました。



後継者語り部育成講座開催 11/7

本部事業。2年前に実施した「語り部養成事業」とやや趣を変え、「元島民の講話」と「話し方の専門家による講習」の二部で構成、今年の中標津支部と別海町支部で実施。

平日夜の開催と専門家講習という硬いイメージから二の足を踏んだ方もいたのでしょうか、後継者会員110名のうち10名と淋しい参加人数ではありましたが、大変有意義な講習会となりました。

第一部には別海連合町内会役員の方々にも参加いただき道立北方四島交流センター（二和）で

専門員として活躍されている鈴木さん（択捉島薬取村出身）のお話を聴きました。

淡々としながらも力強く



目に浮かぶようで1時間があっという間に過ぎました。特に根室に到着すると思っていたものが樺太に連行され劣悪な



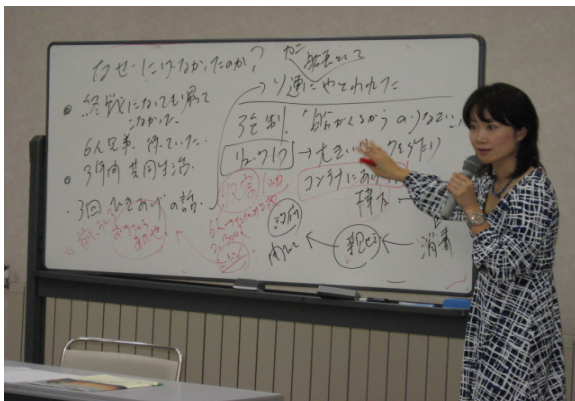
豊かだった四島での暮らしを語ったあと、昭和23年10月の命令で突然行なわれた強制送還の体験に及ぶと、鈴木さんの語り口は淡々としながらも力強く、銃剣をもって土足で入り込んできたソ連兵への恐怖、うわさ、強制労働…。間近で聴くと当時のようすが



環境で過ごしたこと。便槽はガケのようにつかまる所もない、落ちたら最後助からないという暗く深いトイレのことが四六時中頭から離れなかったとの話がとても印象に残りました。北方領土対策協会のHP上にも署名入りで体験談を掲載されていますので是非読んでみてください。

では、直接体験していない後継者がどのように聴衆に説得力のある話ができるのか、第二部ではその具体的な方法を話し方のプロに学びました。

聴衆が具体的にイメージできるように、そして使命感をもって話す



札幌市でフリーアナウンサーとして活躍中の鶴羽さんは、昨年も道内数ヶ所で講師を務めておられます。参加者を飽きさせないようひとり一人と会話しながら、自己紹介、話の構成、話し方、話のポイント、どうしたら緊張しないかなどユーモアたっぷりに講義していただきました。具体的なエピソードを交え聴く人に興味をもたせること、ただしひとつのエピソードは5分以内にとどめること、原稿は作ってもよいが読み上げないこと、姿勢を正し聴衆に向い八の字に視線を動かすとよいこと、

札幌市でフリーアナウンサーとして活躍中の鶴羽さんは、昨年も道内数ヶ所で講師を務めておられます。参加者を飽きさせないようひとり一人と会話しながら、自己紹介、話の構成、話し方、話のポイント、どうしたら緊張しないかなどユーモアたっぷりに講義していただきました。具体的なエピソードを交え聴く人に興味をもたせること、ただしひとつのエピソードは5分以内にとどめること、原稿は作ってもよいが読み上げないこと、姿勢を正し聴衆に向い八の字に視線を動かすとよいこと、



ゆっくり話すこと等々テクニックを教わりました。ただし、一番のポイントは具体的なエピソードを身近な元島民や祖父母、父母から根気よく聞きだすことだといえそうです。

皆さん夜遅くまでお疲れさまでした。

後継者代表者活動促進全国会議・セミナー 札幌10/27

池田副部長、上月さん出席。

管内青連協活動

* 北方領土青少年セミナー開催 7/22

別海町支部青年部からスタッフとして白崎部長、池田副部長、推進員の3名が参加しました。あいにくの悪天候でしたが、標津港から出港。今年度は管内の大学生や教職員を対象に、北方領土の近さを改めて実感し、理解を深めてもらいました。

* 後継者組織設置促進活動 函館支部訪問10/13 池田副部長

会議・要望懇談会ほか

7月 7日 自民党移動政調会(別海) 高橋副支部長

7月27日～8月17日 北方領土返還運動のあゆみ展(別海町図書館)

8月27日 道議会北方対策特別委員会 意見交換会(二ホロ) 臼田支部長、白崎部長

9月 5日 岸田文雄特命担当大臣との要望・懇談会(根室市) 臼田支部長

9月18日 支部青年部合同役員会

9月28日 後継者対象のビザなし訪問対話集会(国後) 青年部上月さん

北方地域旧漁業権者等に対する特別措置に関する法律(北特法)の一部改正に伴う調査実施

来年4月の施行に先立ち、新たに対象になるとと思われる方に本部より調査票を発送しています。この改正により別海町内では10名程度が「元島民」に認定されると思われます。

★昭和20年8月15日まで引き続き6ヶ月以上北方地域に生活の本拠を有していた者の子で

- ① 昭和20年8月15日以前6ヶ月未満の期間内に北方地域で出生し、かつ、引き続き同日まで北方地域にいた者
- ② 昭和20年8月15日後に北方地域で出生した者

【別海町支部会員数調べ】

H19.11.15 現在(名)

支部会員	賛助会員	うち元島民	うち後継者 (S20.2.16以降出生)	後継者のうち 青年部加入
195	2	116	77	32
青年部員数			支部加入	支部未加入
66			32	34

あとかき

- ★ 語り部講師を引き受けてくださった鈴木さんは、この現状が耐えがたいと言います。「ときどき発言が過激だって叱られるのよ」と冗談交じりに話されますが、強制送還を経験し、長年返還を訴えてきた元島民としての悔しさと歯がゆさがいり混じった心情が伝わってきて、つい事業の遂行にばかり目が向きがちな自分を反省しました。当然のことを言うためにいわれのない中傷に耐えてきたのも元島民の現実です。
- ★ 今年度になって4名の会員が亡くなりました。心よりご冥福を祈ります。本部では毎年加入促進に取り組み、今年は9月から30歳、36～46歳の後継者に絞り加入を呼びかけております。4月以降6名の後継者が支部に入会いたしました。
- ★ このたび内閣府、外務省の資料が届きましたので参考までに抜粋して同封いたします。(A)